



■ 学校教育目標

『自ら・共に拓く堺小っ子』

- 進んで考える子
- 思いやりのある子
- 心と体をきたえる子

発行日：令和4年7月22日

全教育活動を通して 主体的・対話的で深い学び 資質・能力の育成を



素晴らしい！1年生でこの集中力！聞き方は話す方をみて！話す方はみんなに向けて！

タブレットで自分の考えを説明！聞く方も真剣！

ピカピカの新1年生42名を迎え、272名でスタートした新年度ですが、大きな事故等もなく1学期を終えることができました。保護者・地域の皆様の本校の教育活動へのご支援ご協力に対しまして、あらためて心より感謝申し上げます。

子供たちが活躍する未来は劇的な変化が予想されています。暮らしの中にAIやロボットが今まで以上に急速に普及していく、そんな社会を生きるのに必要な資質・能力は、一方的に知識を教えるだけでは育成できません。未来で求められるのは、身の回りの様々な問題に立ち向かい、解決に向けて多様な他者と協働しながら、状況に応じて最適

な解決方法を探り出す力、知識や情報を活用し自分の考えを形成したり、新しいアイデアを想像したりする力をもった人材とされています。

そこで、本校としては重点目標『主体的・対話的で深い学び』の実現による子供の育成のもと、「児童同士が学び合う児童が主体となった授業の創造」を中心に、本校が育成を目指す資質・能力（コミュニケーション力/想像力/忍耐力/自主性/自律心/自己判断力）の育成を目指し取組を進めてきたところです。普段の授業においては、聞き合い、伝え合い、学び合うことがごく当たり前の光景となっており、また、対話を通して理解が深まったり、広がったりするなど、学び合いの質が一步一步確実に向上してきているとも感じているところです。運動会の取組の折にもお伝えしていますが、学校行事や集会等においても、主体的・協働的な取組が定着し、楽しかっただけではなく充実した行事・集会となり、育成すべき資質・能力の育成に繋がっていたと、子供たちの活動の様子から実感しているところです。

また、本校は、学校は単なる学習機関ではなく、人と人との触れ合いのための大切な場所であると認識しており、上記の「主体的・対話的で深い学び」「主体的で協働的な取組」を実現していくためには、話し方・聞き方などの学習規律の定着をはじめ、子供たちが安心して学びに向かえる、多様性を認め合う、支持的風土に満ちた学級づくりや、思いやりの心などの道徳性の育成などが重要な基盤となるものと捉えています。そんな基盤づくりにも並行して取組を進めてきました。

本校では現在、本年度のここまでの取組についての中間評価を進めています。その検証結果や、保護者の皆様にご協力いただいた保護者アンケート結果を、2学期以降の本校の教育活動に生かしていきたいと考えています。保護者の皆様には、今後も変わらぬご支援ご協力をいただければと思います。どうぞ宜しくお願い致します。